基礎編課題⑤名前【　　】

タイトル	未定
この話で一番書きたいこと	やりたいことには素直になっていいということ
この話で読者に感じてほしいこと	主人公の成長と、決意を固めるところ

世界設定	特殊能力を持って生まれる人がいる亜現代。
主人公の属する集団について	能力者専門の学園。時には依頼をされることもある。

キャラクター	性別／年齢	おおまかな設定
主人公	男／１８歳	他者の能力が分かる能力者。学園の学生だが、卒業後は研究者になる予定。
ヒロイン	女／１８歳	怪力の能力者。学園の学生。災害地域から人々を救う自衛隊に入る予定。主人公とはウマが合わない。
敵	男／２１歳	主人公が入ろうとしている大学の先輩。主人公の力を気に入っている。
ライバル	男／１８歳	主人公にことあるごとに突っかかる。能力者で現場で活躍することを生きがいにしているが、頭が悪い。
その他	男／３５歳	主人公が研究者になろうと思ったきっかけの科学者。よく相談にのってもらっている。

ストーリー

プロローグ（物語の始まり、主人公の特徴や世界の特徴がわかる原稿用紙１０枚から３０枚ぐらいのエピソード）	能力者たちが集まる学園で、研究発表会がある。主人公は頭の良さから様々な人に誘われるが、良い研究対象がない。するとヒロインを目撃。己の能力でも分からない強さに惹かれ、ヒロインに研究の協力を依頼。けれど気持ちが悪いと断られてしまう。
メインのエピソード（主人公が何に立ち向かって、何を成し遂げようとするか）	ライバルから喧嘩をふっかけられるが、寸でのところでヒロインに助けてもらう。ヒロイン自身も友達が少なく、研究発表の相手がいない。そこで利害の一致ということで二人は組むことになる。 ライバルはヒロインを狙っていたこともあり、更に執拗に絡むように。けれど主人公はライバルも研究発表に加えたくなり、結局三人で取り組む。 研究は成功。そこへ主人公の先輩【敵】が現れ研究をべた褒め。試しにと新たな課題を渡され、主人公は積極的に取り組む。けれどどんどんと体調不良になっていき、ヒロインとライバルは忠告するも聞かない。三人に亀裂が入る。

基礎編課題⑤名前【　　】

大どんでん返し１ （物語の真相など）	研究が完成するが、それは能力自体をこの世から消失させるものだった。しらずと加担されていた主人公はショックを受ける。 　ヒロインとライバルが主人公を助けに来る。能力で人々の助けになりたいという己の目的を思い出し、主人公は前を向く。
大どんでん返し２ （事件をどう解決するか）	ヒロインとライバルが追い詰めるが、敵は圧倒的。だがそれはフェイクで本当は主人公が敵に渡した研究課題を分解、解体していた。 　見えなかった敵の弱点が見えて、三人で敵を倒す。
エピローグ	主人公は研究員に、ヒロインは自衛隊に入って再会。ライバルは己を鍛えると一人で旅に出るといって海外へ。また会えるかなと二人で笑い合うのだった。

講評

主人公・ヒロイン・ライバルの関係が爽やかで好印象です。三人ドれぞれの持ち味が物語で活きるのが想像できます。キャラクターで物語どんどん引っ張っていけますね。

設定やエピソードを加えたい・変更したい点がいくつかあります

1、ヒロインの能力→怪力はわかりやすいですが、研究の対象としてどれほど魅力的か伝わりにくいです。ライバルも狙っていることですし、もう少し魅力的な能力を考えたいです。

2、敵はなぜ能力をこの世から消失させたいのか、理由をしっかり考えましょう。

3、一番書きたいことにある「やりたいことには素直になっていいということ」とてもいいと思います。しかし、エピソードのどこで描かれるのか見えてきませんでした。「能力で人々の助けになりたい」は至極真っ当な考えで、素直になる必要性が薄くなります。多少強引でも主人公がやりたいことを作ってあげたいです。